

野外活動プログラム

活動名	(16) フィールドビンゴ			
内容	<p>自然の家周辺の森や沢の中で、自然と親しみながらビンゴゲームを行います。ビンゴカードには、色、匂い、音、形、手触りや、鳥や昆虫、植物など、自然の中にあるいろいろなアイテムを設定します。自然の中に出てアイテムを発見したらビンゴカードに丸をつけ、ビンゴが何本できたかを競います。ビンゴの枠は、参加者のレベルに応じて3×3から5×5まで設定できます。アイテムも季節に応じて自由に設定できます。(例：黄色い花、トンボ等) アイテムの設定等については、事前に職員に相談してください。</p>			
条件	場所	自然の家周辺	対象	幼児以上 (小学生未満は大人の付き添いが必要)
	時間	1～2時間	人数	5人以上(1グループ5名程度)
	時期	通年	天候	小雨可
期待される教育効果	<p>(1) ゲームで遊びながら自然に親しむことで、興味関心が増す。 (2) とともに野外活動を行うことで、参加者間の親睦が深まる。</p>			
準備物	自然の家が貸し出す物		団体が準備する物	
	<input type="checkbox"/> ビンゴカード(必要に応じて) <input type="checkbox"/> バインダー <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> 無線機		<input type="checkbox"/> 動きやすい服装(長袖、長ズボン、運動靴) <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 雨がっぱ(雨天時) <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> 救急用品 <input type="checkbox"/> ビンゴカード(持参する場合)	
展開	<p>1. 事前(準備) (1) 事前に下見を行い、危険箇所や所要時間等の把握をする。 (2) 自然の家職員と安全管理方法について打合せをする。 ①危険箇所に引率が立ち、エリア内で子供たちのみの班活動をする。 ②各班に1名の引率者がつき、班活動をする。 (3) ビンゴ枠と、そこに埋めるアイテムの設定を行う。 (自然の家で作成したビンゴカードを使用することもできる。) (4) 当日の天候を見て、自然の家の職員と相談の上、実施の判断をする。</p> <p>2. 活動 (1) 代表者は自然の家職員から安全指導時に貸出物品を受け取る。 (2) 安全指導を受ける場所に集合し、点呼及び健康観察を行う。 (3) 安全面に関する注意と、ルールやマナー等についての話を聞く。 (4) 活動場所に移動し、グループごとにゲームを開始する。 (5) 休憩は多めにとり、水分補給、健康観察を都度行う。 (6) 決められた時間まで集合し、呼及び健康観察、成績発表を行う。 (7) 傷病者が出た場合は、ただちに自然の家に無線連絡を行う。</p> <p>3. 事後(片付け) (1) 靴の泥を落とし、必要に応じて更衣をする。 (2) 代表者は事務室に無線機、貸出物品を返却する。</p>			
安全管理ポイント	<p><input type="checkbox"/>実施の可否は、自然の家職員と相談の上で決定する。 <input type="checkbox"/>各グループに1名の引率者がつき、後方からグループの様子を観察しながら同行するのが望ましい(小学生未満は同行必須)。引率者の人数に余裕がない場合は、引率者を要所に配置する。参加者には、引率者がどのポイントにいるかを伝え、緊急事態が発生した場合は、そこに行くようにする。引率者は無線機や携帯電話で連絡が取れるようにする。 <input type="checkbox"/>蛇や蜂、猪などの危険動物や危険植物に注意する。 <input type="checkbox"/>単独行動は絶対にしないよう指導を行う。 <input type="checkbox"/>けがや体調不良で動けない者が出た場合は、団体の救護車で搬送するか、自然の家に連絡し、指示された場所で待つ。 <input type="checkbox"/>他団体が活動中の場合、活動に支障がないようにさせる。</p>			

フィールドビンゴシート (例)

諫早青少年自然の家で作成したモデルシートです。これらを参考に、団体独自でオリジナルのものを作成してください。

フィールド⁰⁰ビンゴ⁰⁰ 春バージョン

黒い石 	すてきな実 の (10ヶ) 	黄色の花 	春(はる) におい 	風の音
ひばり 	まるいもの 	あしあと 	ピンク色 の花 	
春をま わっている つぼみ 	さんかくの もの 	グループの みんなが これぞ 春 と 思っている もの 	しぐさの もの 	ちょう つ
春はあ かす 	生ものの おうち 	水がなが れる 音 	ざらざら した もの 	
春はあ かす 音 	とりの 声 	おもろ い かた くも 	木 の えだ 	どろどろ に い る 石

- ◎ みんなのやくそく ◎
- ・グループのみんなぞみつけましょう。
 - ・きげんな場所には行かないようにしましょう。
 - ・みんなはやくやしましょう。

フィールド⁰⁰ビンゴ⁰⁰ Summer

大きな 岩 	木の 実 	青い色 のもの 	なつ の くも 	虫の 声
大きな 木 	赤い 色 の もの 	ま る い 形 	ま る い 形 	か ぜ の あ と
大きな 木 	三角 のか た ち 	一番 なが い と 思 う た も の 	し ら い い 形 	ど ろ ど ろ に い る 石
か え る 	ふ ろ う い は な 	ハ ー ト 形 	み ど り 色 の も の 	土 の お い い
ど の こ え 	い は ら い の か た ち 	水 の な ま み だ り 	水 の な ま み だ り 	た い よう

- やくそく
- ・あぶないところへはいきません。
 - ・みつけたら □ にチェックをしましょう。



フィールド⁰⁰ビンゴ⁰⁰ 秋バージョン

秋の お い い 音 	土 の お い い 	ま る い 形 	と り の こ え 	木 の か た ち
ま る い 形 	花 	ま る い 形 	虫の こ え 	か ぜ の あ と
茶 色 の も の 	こ れ ぞ 秋 と 思 っ た も の 	ハ ー ト の か た ち 	ハ ー ト の か た ち 	秋 の お い い 音
あ か い お い い 音 	ま る い 形 	ま る い 形 	あ か い お い い 音 	あ か い お い い 音
音 の お い い 	た い よう 	ざ ら ざ ら し た 石 	木 の え だ 	赤 い の も の

- やくそく
- ・あぶないところへはいきません。
 - ・みつけたら □ にチェックをしましょう。



フィールド⁰⁰ビンゴ⁰⁰ 冬バージョン

白 い お い い 音 	茶 色 の も の 	す て き な 実 の お い い 音 	こ お た え (し も ね ら し) 	赤 い 色 の も の
あ か い お い い 音 	つ ら い 	ま る い 形 	ど ろ ど ろ の あ し あ と 	お も ろ い 物 の お い い 音
た ね 	ハ ー ト の か た ち 	こ れ ぞ 冬 と 思 っ た も の 	し ら い い 形 	茶 色 の も の
黄 色 の も の 	大 き な 岩 	こ い か く の も の 	風 の お と 	ち か ち か ち の も の
た い よう 	あ か い お い い 音 	白 い 色 の も の 	ね ん い ん 	あ か い お い い 音

- やくそく
- ・あぶないところへはいきません。
 - ・みつけたら □ にチェックをしましょう。



フィールドビンゴ実施の手引き	
引率者の心構え	<p>1. ねらいを明確にした活動計画を作りましょう。 (1) 「何のために実施するのか」「どのように活用するのか」そのねらいをはっきりさせて計画を作りましょう。 (2) ねらいや参加者の体力に応じて活動時間を決めましょう。</p> <p>2. 引率者（団体の責任者）は必ず事前の下見を行いましょう。 下見をすることで、引率者が待機するポイントや危険箇所の把握及び的確な指導法の発案などに役立ちます。</p> <p>3. 活動における注意事項を徹底するための事前説明（学習）を行いましょう。 自然の中での活動は危険を伴う場合があることや、活動のねらいをしっかりと伝えるためにも、事前説明を行いましょう。</p> <p>4. 直前の気象情報を把握してから活動しましょう。 長崎地方気象台 HP 等で天気予報が調べられます。これらの情報をもとに、自然の家の職員と相談の上、実施の可否を決定します。</p> <p>5. 活動中は環境への配慮を取り入れましょう。 山の美しい環境は、絶妙なバランスの上に成り立っています。環境に負担をかけないように十分配慮しましょう。</p> <p>6. 事後学習の機会を設けましょう。 活動エリアの環境と身近な環境の違いや、フィールドビンゴで築かれた人間関係など、ねらいに合わせた振り返りをしましょう。</p>
安全な活動のための準備	<p>1. 服装、装備 (1) 長袖、長ズボン、帽子の着用 ・自然の中での活動は、夏でも長袖、長ズボン、防止が基本です。肌の露出は控えましょう。 (2) 運動靴と靴下を着用 ・履きなれた運動靴を履きましょう。脱げやすいものや底がつるつるのものは滑りやすく危険です。 ・足が固定されるように厚手の靴下を着用しましょう。 (3) 雨具の準備 ・山の天候は変わりやすく、予想外の降雨等も考えられます。防寒具としても使えますので、必要に応じて雨がっぱ等を準備しましょう。雨がっぱは上下に分かれる物が使いやすいです。</p> <p>2. 事故に備えての対応 (1) グループに傷病者が出た場合、誰が、どのように対応するかを事前に決めておきます。 (2) 万が一の事故に備え、諫早自然の家、学校、保護者等の関係者への連絡方法を決めておきます。 (3) 引率者は、スタート時、ゴール時等、絶えず人員の確認と参加者の健康状態を確認することが大切です。</p>

<p>自然の家 来所前に 指導して いただき たいこと</p>	<p>(1) 体調を万全にして臨む。 (2) 出発前に服装、装備などをお互いに点検する。 (3) 活動中は、グループ全員がまとまって活動すること。 ①単独行動は、けが等の原因になります。また、体調が悪くなる、けがをするなどして動けなくなった場合に、引率者との連絡が困難になります。 ②万が一誰かがけがをしたり、具合が悪くなったり、動けなくなったときは、ただちに近くの仲間や引率者に知らせ、助けを求めるようにします。 (4) 身の安全を守る。 ・蛇や蜂等の危険動物を発見したら、全員に注意を喚起する。 ・天候が変わり、雷の音が聞こえた場合は、すぐに戻るか、建物の中に入るようにします。 (5) 水分補給は、少量ずつこまめに行う（のどが渇く前に飲む）。 (6) 防寒着をこまめに脱いだり着たりして、体温調節を心がける。 (7) 帰着時はきちんと靴の泥を落とす。</p>
<p>活動中止 等の基準</p>	<p>(1) 落雷の危険がある。 〈基準〉 ・雷警報が発令されている。または、雷鳴が聞こえる。 ・雷注意報発令中で、気象レーダーで雷雲の発生が見られる。 ・自然の家事務室のサンダーメーターが作動した際には、中止する。 (2) 大雨の危険がある。 〈基準〉 ・大雨警報、洪水警報が発令されている。 ※注意報発令時は自然の家と実施団体で相談の上、判断する。 (3) 濃い霧が発生している。 〈基準〉 ・霧が出ているときは自然の家と実施団体で相談の上、判断する。 ※実施に不安がある場合は、遠慮せず事務室に相談にお越しくください。</p>